

令和4年度 日本版MaaS推進・支援事業 6事業について

日本版MaaS推進・支援事業の拡大

■ 面的な利便性向上・高度化につながる取組への支援 → 6事業（令和4年度）NEW !!

- MaaSの社会実装に向けた取組への支援 → 12事業（令和3年度）
- 地域特性に応じたMaaSの実証実験への支援 → 36事業（令和2年度）
- 全国の牽引役となる先行モデル事業への支援 → 19事業（令和元年度）



R4 6事業
あ.北海道芽室町
い.群馬県前橋市
う.神奈川県横須賀市、他
え.神奈川県三浦半島
お.三重県菰野町
か.九州全域

R3 12事業	
a.北海道芽室町	g.富山県朝日町
b.群馬県前橋市	h.静岡県静岡市
c.東京都大丸有地区	i.京都府与謝野町
d.山手線周辺/横須賀市	j.宮崎県
e.川崎市、箱根町	k.沖縄県
f.神奈川県三浦半島	l.沖縄県宮古島市

※下線部3事業はR3年度新規

R2 36事業	
1.北海道十勝地域	19.静岡県伊豆半島
2.北海道洞爺湖町周辺	20.静岡県浜松市
3.北海道札幌地域	21.愛知県春日井市
4.福島県会津地域	22.三重県菰野町
5.茨城県ひたち圏域	23.滋賀県大津市
6.茨城県土浦市	24.京都府京丹後市
7.栃木県宇都宮市	25.京都府京都市
8.群馬県前橋市	26.京都府舞鶴市
9.埼玉県三芳町	27.大阪府池田市
10.神奈川県横浜市周辺	28.兵庫県神戸市
11.神奈川県横須賀市周辺	29.広島県福山市
12.神奈川県三浦半島	30.広島県広島市
13.神奈川県川崎市	31.香川県高松市
14.神奈川県南足柄市	32.愛媛県南予地域・松山市
15.富山県朝日町	33.福岡県糸島市
16.石川県加賀市	34.宮崎県宮崎市・日南市
17.長野県茅野市	35.沖縄県全域
18.静岡県静岡市	36.沖縄県宮古島市

※下線部25事業はR2年度新規

R1 19事業
A.ひがし北海道エリア
B.福島県会津若松市
C.茨城県日立市
D.茨城県つくば市
E.群馬県前橋市
F.神奈川県川崎市・箱根町
G.静岡県伊豆エリア
H.静岡県静岡市
I.三重県菰野町
J.三重県志摩地域
K.大津・比叡山
L.京都府南山城村
M.京丹後地域
N.兵庫県神戸市
O.山陰エリア（島根・鳥取）
P.島根県大田市
Q.広島県庄原市
R.瀬戸内エリア
S.沖縄県八重山地域

各事業の取組概要

※公募申請時の資料のため、今後、変更の可能性があります。

芽室MaaS事業 Version UP「めむろコミ☆タク」

昨年度実施した「みんなのコミ☆タク」共生・支援型 芽室MaaS事業で得た知見を活かし、地域の特性（過疎農山村地域・高齢化・希薄な公共交通・クレジットカード保有率の低さ・タクシー事業者の収益悪化）を考慮し、産学官の連携を図りながら都会とは違うMaaSで事業のVersion UPを図っていく。さらには昨年度把握できた移動の目的（通院・買い物・食事等）に加え、①市街地で開催される介護予防・認知症予防等の活動、②娯楽などを移動の目的化させていくことで移動機会を創出し、健康で活気ある町づくりに取り組む。

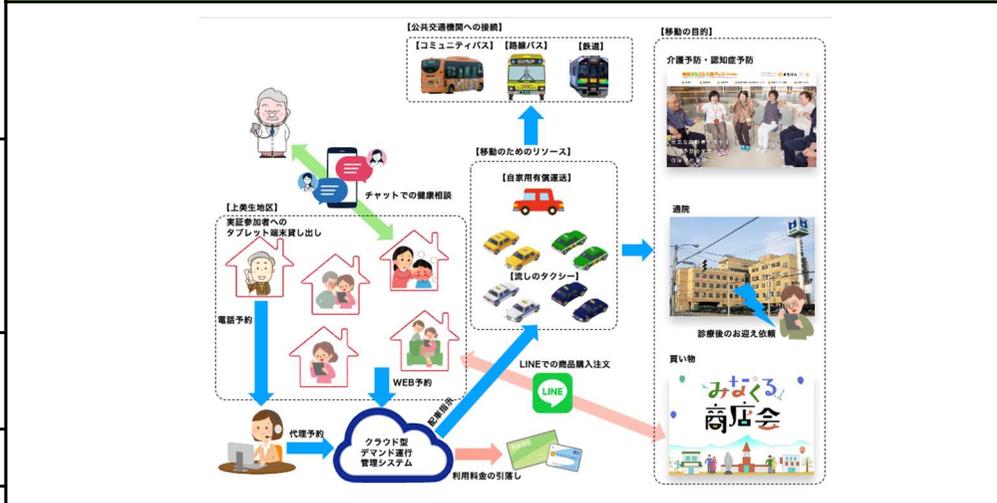
協議会の構成員
 【幹事】芽室町、芽室町公共交通活性化協議会、北海道経済連合会、芽室みなくる商店会、NPO法人上美生、こばとハイヤー株式会社、十勝バス株式会社、株式会社TKコミュニケーションズ、小樽商科大学、北翔大学、（相談中）コープさっぽろ、NPO法人ソーシャルビジネス推進センター、株式会社ノーススター、電脳交通株式会社、NEVELL株式会社、株式会社CHIENOTECH

- 地域課題**
- 農村地区の過疎、高齢化
 - 域内学生(高校生)の通学
 - 希薄な公共交通(路線バス、鉄道)とこれによる買物難民化
 - タクシー乗務員の成り手、担い手不足
 - 高齢者の健康維持増進やデジタルデバイド解消

事業概要	サービス開始時期	2022年10月～2023年2月
	エリア	芽室町上美生地区
	MaaSシステム	WEBと電話によるデマンド予約、及び高齢者でも簡単に操作できる予約タブレットをあらたに開発、利用者の家庭に配置する
	交通サービス	<ul style="list-style-type: none"> 乗合型オンデマンド交通の運行 上記予約・機能の提供（高齢者向けに電話によるオペレーションコールセンターを構築） 口座引落とし型の運賃形態でのサービス提供
交通以外のサービス	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設との連携による、買物支援サービスの提供 口座引落としによるキャッシュレス化 病院診察時間に応じた簡単操作の予約変更 	

- 事業目的**
- 公共交通の希薄な過疎農山村地域にあった、デマンド交通を実装することにより、住民の移動・買物手段を確保する。
 - 口座引落としによるキャッシュレスの進め方を探る。
 - 自家用有償運送と流しのタクシーのリソース相互補完の在り方を探る。
 - 予約タブレットを無償配布することでのデジタルデバイドの解消

取り組みイメージ



評価指標

- 利用者の属性・頻度などの集計・分析
- 乗降場所ログによる集計・分析
- 家庭でのタブレット使用状況
- 買物支援策需要と生活必要商材の検証
- 外出頻度の向上に向けた施策の検討資料の蓄積

今後の方向性

- 今事業では対象となるエリアを上美生地区に限定し、サービスを磨き上げた上で、町内他地域への水平展開を図る。
- タクシー乗務員の担い手不足は深刻な課題であり、タクシー事業者と、自家用有償旅客運送のコラボレーションによる相互補完可能な運行を目指す。
- 地域住民の健康維持・増進を図るための、地域医療機関やヘルスケアプログラム等とデマンドサービスの連携を進めていきたい。

MaeMaaS（前橋版MaaS）高度化事業

これまでの事業から継続して、地域公共交通の利便性向上及びMaeMaaSの高度化を実施する。今年度はMaaS実装時の課題となる「交通事業者間の利害調整」への対応策として共同経営シミュレーション・運賃プール分配を実装するとともに、誰もが安心して使える公共交通を利用できるよう、見守りサービスを実装。また、こうした新たな取り組みに対する効果測定機能を実装し、定量・定性両面での面的な改善を図る。なお、引き続きマイナンバーカード認証基盤との連携による割引等の運賃施策等を実施し、MaaS環境の構築による市民の公共交通に対する意識変容、社会受容性の検証を行う。

協議会の 構成員	【幹事(事務局)】前橋市 株式会社NTTデータ、上毛電気鉄道株式会社、一般社団法人群馬県バス協会、前橋地区タクシー協議会、東日本旅客鉄道株式会社、一般社団法人ICTまちづくり共通プラットフォーム推進機構、株式会社未来シェア	
地域 課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の維持のための市の財政負担の増加 ● 高齢運転者による交通事故の増加 ● 交通空白地域の住民の外出機会の減少 	
事業 概要	開始時期	令和5年1月頃（サービス提供開始時期）
	エリア	群馬県前橋市全域
	MaaS システム	JR東日本が提供するMaaSプラットフォーム「モビリティ・リングージ・プラットフォーム」を活用し前橋版MaaS「MaeMaaS(マイマス)」としてwebサービスを提供。
	交通 サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 路線バス共同経営における各種シミュレーション・運賃プール分配の実装 ● 新しい取り組み（共同経営・見守り・路線再編等）の定量・定性両面での効果測定の実装 <p>※以下の取り組みは継続して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オープンデータを活用したリアルタイム経路検索の提供 経路検索（バスロケ・シェアサイクル・デマンド交通等） ● デマンド交通の予約をMaeMaaSにより一元化 ● デジタルフリーパスの販売 ● 市民認証による前橋市民割引の提供（マイナンバーカード認証基盤と連携） ● 介護車両共通プラットフォームとの連携。既存公共交通との利用者の棲み分けを明確に定義し、共存環境を構築
交通以外 のサービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 見守りサービスの実装 <p>※以下の取り組みは継続して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の観光施設や飲食店の検索機能の提供 ● 路線バスのデジタルフリーパス購入者への店舗等の特典の付与 	
事業 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 前橋市が取り組んでいる交通再編を有効化し公共交通の利用者数増加に繋がるサービスとすべく検証を実施する。 ● 多様な交通モードが入り混じる前橋市において、各交通情報を一括して提供。わかりやすい情報案内環境を構築し、公共交通の利用促進とする。 	

取組イメージ

シミュレーション・運賃プール

市内のバス事業者のデータ

↓

共同経営シミュレーション | 分配金計算

→ 適正かつ公正な共同経営・実態を踏まえた交通政策立案へ

見守りサービス

学生・高齢者の乗降通知

↓

見守り者が乗降を把握

→ 交通弱者でも安心して公共交通を利用できる環境へ

効果測定

各種データ + 市民の声

↓

定量・定性両面で効果を測定

→ 真の改善点を洗い出し、継続的な改善活動へ

評価指標

【各種シミュレーション・運賃プール分配】

- サービスの利用回数 18回（3回/1事業者）
- 新規検討対象路線数 3路線
- 利用者満足度 80%

【見守りサービス】

- 利用者数 200人
- 利用者満足度 80%
- 交通弱者が公共交通を選択した割合 5% ※サービスデータ管理画面及びアンケートにより実績を取得。

今後の方向性

- バス以外の交通モードも併せた、MaeMaaS全体としての運賃施策（サブスクリプション等）・分配・乗り継ぎ施策の実現
- 移動データ等の取得・連携・利活用の手法を確立させるための公共交通共通プラットフォームとして整備
- 利用者が使いやすいシステム・環境の構築。公共交通そのものを便利に使えるようICTを活用
- 複合的なデータ連携により新たなサービスを提供

Universal MaaS～誰もが移動をあきらめない世界へ～

移動躊躇層(※)が抱えている課題を、Universal MaaSのコンセプトに従って利用者および自治体、地域、事業者の視点から解決し、行動変容を促すことにより新たな移動需要を喚起する。2021年度の実証実験結果を踏まえ、段階的に社会実装を進める。

※障がいや高齢など、何らかの理由により移動を躊躇している方々。2022年度は対象者・対象地域・参加自治体・企業を拡大

協議会の構成員	【幹事】全日本空輸（ANA） 【横須賀エリア】横須賀市、京浜急行電鉄、横浜国立大学 【札幌エリア】札幌市、ANAあきんど 【機能/サービス】 (1) オンライン一括サポート手配：東日本旅客鉄道、東京モノレール、エムケイ、道内交通（調整中） (2) リアルタイムバリアフリー地図/ナビ： ①屋外 下肢障がい：WheelLog、ゼンリン、ゼンリンデータコム ②屋外 視覚障がい：損保ジャパン、プライムアシスタンス、Ashirase、AWO ③屋内 下肢/視覚障がい：清水建設、SOMPOグループ、AWO その他、右記URLの数十者を予定 https://universal-maas.org/partner	
	地域課題	介助やサポートを必要としている利用者への対応が、自治体・地域・事業者ごとに大きく異なっており、また各交通事業者や施設管理者との連携方法が定まっていないため、移動躊躇層における自律的なdoor-to-door移動が不便（全国的な課題ではあるが、まずは特定の利用者・自治体・地域・事業者を対象を絞って課題解決を行ない、徐々に横展開していく）
事業概要	サービス開始時期	実証実験を経て、2022年度以降の段階的なサービス開始を目指す。
	地域（拡大）	(1) 都心⇔羽田⇔伊丹/福岡/新千歳⇔京阪神/福岡/札幌 (2) 横須賀市/札幌市/松山市（横須賀市と連携）
	MaaSシステム	既存経路検索サービスや観光案内サイトに以下をAPI連携 (1) 一括サポート手配機能 (2) バリアフリー地図/ナビ機能
	交通サービス	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通領域だけでなく、地域内の周遊や交通結節点の屋内外の移動を含めたdoor to door地図/ナビの提供 自分に合ったルートを選択・保存し、旅程管理や介助手配状況の確認を可能とする情報・機能の提供 介助を必要とする利用者が支援内容を事業者へ依頼し、事業者が回答するコミュニケーション機能の提供 バリアフリー/ユニバーサル関連の移動手段との連携
交通以外のサービス	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー/ユニバーサル関連機能とのAPI連携 各種移動支援サービスや機能との連携（以下参照） https://universal-maas.org/partner 	

事業目的
利用者および自治体、地域、事業者の視点から、移動躊躇層における課題解決を行い、行動変容を促すことにより新たな移動需要を喚起する。

取組イメージ

MaaSを通じて提供するサービスのイメージ

(1)公共交通移動における一括サポート手配の実現

【現在】各事業者へ個別に都度、連絡・確認 【未来】各事業者に一括手配

(2)徒歩区間における自律的移動の実現

【現在】自分に合った移動手段・情報が不足 【未来】移動手段・情報の選択肢が充足

※地域内の周遊や交通結節点の移動における課題を解決(以下OPIのエリア)

Universal MaaS
～誰もが移動をあきらめない世界へ～

評価指標

- [指標]a:提供サービスに対する利用者満足度
b:提供サービスが外出のきっかけとなった人の割合
c:本事業をきっかけに公共交通を選択した割合
- [目標]75%以上の利用者が10段階中上位4位以内の回答
- [測定方法]利用実績ログ、アンケート、ヒアリング等を活用

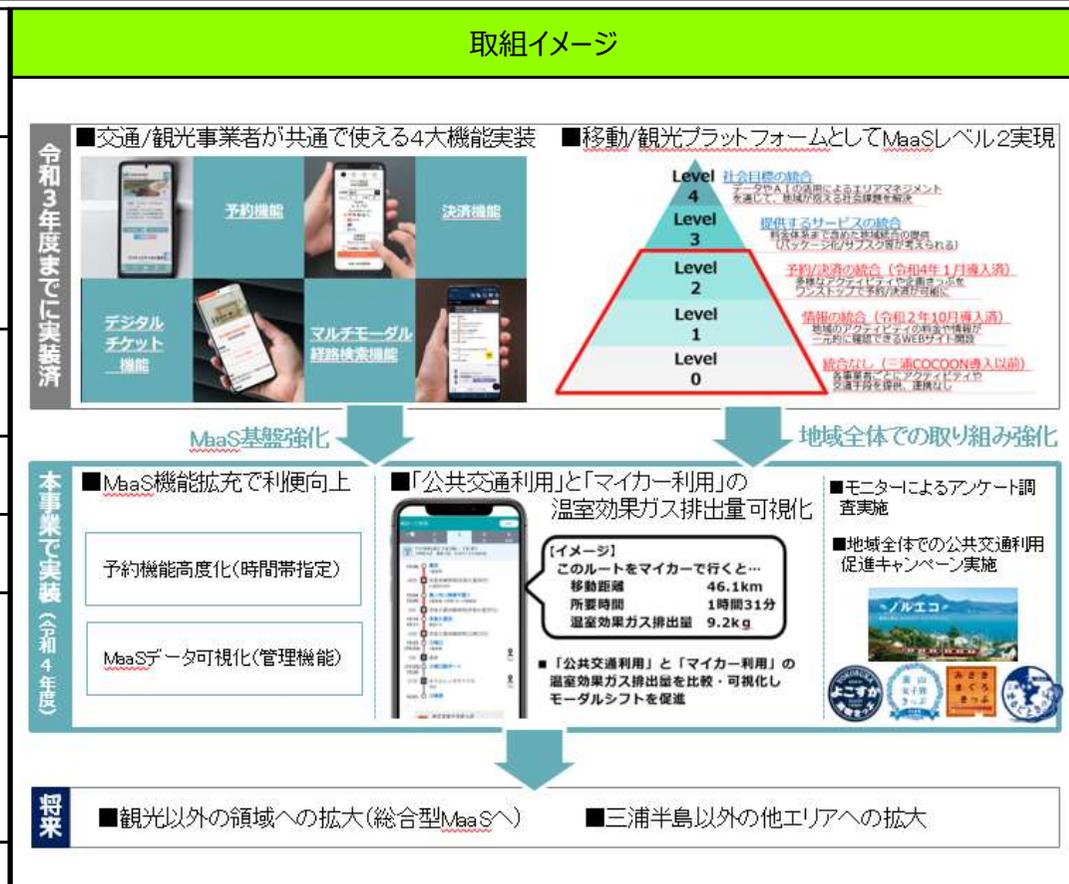
今後の方向性

- 対象者や対象自治体/地域/事業者を拡大し、昨年度までに抽出した課題の解決ができた自治体/地域/事業者から、段階的に社会実装を目指す。
- 一括サポート手配については、将来を見据え、一括予約や決済、マイナンバーカードとの連携を検討し、バリアフリー地図/ナビについては、最終ゴールであるユニバーサルな地図/ナビを目指すべく新規技術を引き続き追求する。

観光型MaaS「三浦COCOON」を活用した地域全体でのカーボンニュートラル事業

三浦半島広域の観光事業者、交通事業者、自治体等約250団体が参加し、2020年度から常設サービスとして展開する観光型MaaS「三浦COCOON」の機能を強化し「**温室効果ガス排出量削減効果の可視化機能**」を実装するとともに、公共交通での来訪者の優遇策の実施などを通じ、地域全体でカーボンニュートラルの実現に向けた社会課題の解決を目指すことで持続可能なモデルを構築する。

協議会の 構成員	観光型MaaS「三浦COCOON」推進協議会 【幹事】京浜急行電鉄株式会社、シヨルダン株式会社、株式会社京急アドエンタープライズ、三浦市、横須賀市、逗子市、葉山町、鎌倉市、神奈川県	
地域 課題	【課題①】マイカー過多と繁忙時期集中による交通渋滞、温室効果ガス排出量増大 公共交通利用促進の必要性、夏季を中心とした繁忙時期の一極集中 【課題②】MaaSで取得したデータの未活用 MaaSの蓄積データ分析による、地域課題解決への活用への必要性 【課題③】滞在目的、2次交通の情報不足・分散による短時間滞在 滞在コンテンツや2次交通の情報が一元化されておらず、わかりにくい	
事業 概要	サービス 開始時期	■ 2020年度 「三浦COCOON」サービス開始 ■ 2021年度 デジタルチケット、予約決済機能など実装 ■ 2022年11月～1月 本事業（追加機能実装）
	エリア	三浦半島エリア（横須賀市、三浦市、逗子市、葉山町、鎌倉市）
	MaaSシステム	観光型MaaS「三浦COCOON」
	交通 サービス	【実装・実施済】 <ul style="list-style-type: none"> ● マルチモーダル経路検索機能の提供（2021年10月） ● デジタル企画きっぷの販売（2022年4月～） ● 多様な交通基盤の整備「COCOONモビリティパッケージ」（2021年8月～、拠点整備事業として推進中） 【本事業にて実装・実施】 <ul style="list-style-type: none"> ● マイカー利用時との温室効果ガス排出量比較換算数値の可視化 ● 地域全体での公共交通利用促進キャンペーン
交通以外 のサービス	【実装済】 <ul style="list-style-type: none"> ● アクティビティ検索機能（2021年10月） ● 地域共通のアクティビティ予約決済機能（2022年1月） 【本事業にて実装】 <ul style="list-style-type: none"> ● MaaSから得られるデータの可視化（管理画面） ● 予約機能高度化（時間帯指定型予約機能） 	



事業 目的	【目的①】MaaSを通じた公共交通へのモーダルシフトの行動変容促進 MaaSによるGHG排出量可視化および、デジタルきっぷと連携した利用促進を行い、交通渋滞低減とGHG排出量の抑制も実現する。 【目的②】データ活用によるエリアマネジメント構築 MaaSから得られるデータの可視化による課題抽出、デジタルマーケティング等に活用し、今後のサービス改善策に反映。 【目的③】地域共通MaaS基盤での情報一元化・2次交通整備による滞在時間拡大 情報・顧客の一元化での相互送客や2次交通提案による滞在時間の拡大
----------	--

評価指標	
<ul style="list-style-type: none"> ● サイトアクセス数 ● 会員登録数 ● デジタルチケット販売枚数 ● GHG削減量 	<ul style="list-style-type: none"> ● アクティビティ予約数 ● 経路検索利用数 ● サービス利用満足度（モニターによるアンケート調査）

今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 常設サービスとして観光型MaaS「三浦COCOON」の機能拡充を進め利用拡大を図る。 ● 観光領域での実績拡大を活かし、都市型、沿線型、といった生活領域へのMaaS基盤拡大 ● 三浦半島以外のエリアでのMaaS基盤拡大 ● 最終的には、MaaSレベル4（社会目標の統合）を実現し、データに基づくまちづくりとエリアマネジメントを目指す。

重要結節点のにぎわいづくりを通じたデジタル人材の育成と公共交通の利用促進

～MaaSを起点に～

町内の高校と連携してITリテラシーを高める様々な授業やイベント等を行い、デジタルに強い人材の育成を図る。これ以外にも、町民が行ってみたいと思える地域イベント情報を発信できる機能を菰野町MaaS「おでかけこもの」に追加導入し、若い世代を含む町民の「おでかけ」のきっかけを創出する。定期的なイベント開催によって町民の「居場所」をつくることで、「地域のにぎわい」という地域課題の解決を図るとともに、公共交通の利用促進・利用者層の拡大を図る。

協議会の構成員	菰野町【幹事】、近畿日本鉄道(株)、三重交通(株)、(有)尾高タクシー事業者、御在所ロープウェイ(株)、国土交通省中部運輸局三重運輸支局、三重県地域連携部交通政策課、名古屋大学大学院環境学研究所 【オブザーバー】菰野町観光協会、(株)NTTドコモ東海支社 <システム構築>		取組イメージ	
	地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 交通不便地域の解消のために導入したAIオンデマンド乗合交通及び菰野町MaaS「おでかけこもの」では、利用者層が高齢者に偏っており、新規の利用者層の発掘が必要 近鉄菰野駅は各公共交通機関の重要結節点となっているにもかかわらず、駅前には活気がなく閑散とした状態であり、活性化のためのにぎわいづくりが必要 		①町民等がイベントを企画※、「おでかけこもの」で周知 ②イベントを知る・参加登録・公共交通の利用予約 ③公共交通を使ってイベントへ参加 ④イベント開催による町民の「居場所」と地域の「にぎわい」創出 ※ 高校生向けにはDX人材育成教育イベント等も多数開催し、町民のITリテラシーの底上げによる将来の地域発展を目指す。
事業概要	サービス開始	令和5年4月		<p>イベントをきっかけにすべての町民が気軽に「おでかけ」したくなるまちへ</p>
	エリア	菰野町全エリア		
	MaaSシステム	菰野町地域公共交通会議と(株)NTTドコモ東海支社が共同開発		
	交通サービス	<ul style="list-style-type: none"> ルート検索（鉄道、バスだけでなく、AIオンデマンド乗合交通を利用したルート検索も可能。近鉄特急予約へも遷移可） AIオンデマンド交通の検索、予約、事前決済（d払い） コミュニティバスの現在地表示（バスロケ）と車内混雑度表示（混雑度は細かく6段階で表示、安心してバス利用が可能） 御在所ロープウェイの運行状況の表示 尾高タクシーの配車予約（電話） 観光協会の運営するeモビリティの利用予約・決済 		
	交通以外のサービス	<ul style="list-style-type: none"> イベント情報の発信機能を導入 高校生を対象としたDX人材の育成による地域発展 学生と高齢者の交流の場を創出し地域の魅力を継承 		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代への公共交通の利用促進 公共交通での「おでかけのきっかけ」を創出し、地域のにぎわいづくり 		評価指標 <ul style="list-style-type: none"> AIオンデマンド乗合交通の利便性向上 利用者数 750人以上/月 AIオンデマンド乗合交通のMaaSアプリ利用者数 利用者数 340人以上/月 AIオンデマンド乗合交通のMaaSアプリ利用率 利用率 45%以上 今後の方向性 <ul style="list-style-type: none"> 引き続き機能追加、改善を行い、町民の皆さんの「おでかけ」を支援する 他自治体で「おでかけこもの」の導入要望があれば積極的に支援を行い、菰野町民が同じアプリを用いておでかけできる範囲を拡大する 	

九州における広域MaaS推進事業

九州各地のMaaS実行組織を通じて実施したMaaSアプリ“my route”による展開を、未導入の各県を中心に面的に九州全域に整備する。交通事業者、官民、幅広いプレイヤーによる共創で、持続可能な地域交通ネットワークづくり、観光の魅力・競争力向上に活用する。併せて九州が一体となった運営組織を設立し、MaaSの社会実装・持続可能なスキームの構築を進める。

協議会の 構成員	【幹事】九州旅客鉄道(株)、西日本鉄道(株)、第一交通産業(株)、全日本空輸(株)、トヨタファイナンスサービス(株)、(一社)九州経済連合会、(一社)九州観光機構 各地に設置済の官民連携MaaS実行組織(福岡県糸島市・宮崎県・佐賀県・大分県・長崎県・熊本県水俣市 他)(今後各地に設置する実行組織も随時参画)	
地域 課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化、人口減少に加えコロナ禍による厳しい交通事業者の経営環境下での、持続可能な地域交通ネットワークの構築 ● ポストコロナを見据えた観光の競争力向上 ● MaaSアプリ・PFを通じた利用実績データの取得・幅広い利活用と、MaaSの持続可能な運営スキームの構築 など 	
事業 概要	サービス 開始時期	2022年度夏 長崎県スタート 2022年度秋 熊本県スタート 2022年度冬 鹿児島県スタート ※並行し既存展開地域でも面的な展開、高度なサービス展開を推進
	エリア	九州・沖縄各県(長崎・熊本・鹿児島は新規展開)
	MaaS システム	my route (トヨタグループが提供するMaaSアプリ)
	交通 サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 同一のMaaSアプリ・PFを活用したシームレスなサービス ● 九州を一つのアプリ(ワンストップ)で網羅 ● 交通事業者をまたいで利用可能なデジタルチケットの設定 ● アプリによる多様なモビリティ利用 ● 新たな需要創出を目指した観光・商業など地域コンテンツとの連携(観光施設入場券や特典、商業施設クーポンなど) ● デジタルチケットQRコード判定によるUI向上と利用データ収集
交通以外の サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業施設・観光施設クーポン提供・販売(交通チケットとのパッケージ販売等) ● 観光・イベント情報提供 ● 行政情報の提供 ● 交通事業者の連携と観光・行政などの連携 ● 地域一体となった観光客を迎える体制づくりと競争力の向上 ● 観光と地域「皆が支える」モビリティ・MaaSづくり ● MaaSの社会実装の推進と持続可能なスキームの構築 	
事業 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 九州内で広域に連携したシームレスな移動の実現、MaaSの社会実装の推進 ● 交通事業者の連携とMaaSアプリ・PFを活用した持続可能な交通ネットワークづくり ● ウィズコロナの観光の利便性、競争力の向上 ● 住民や来訪者のMaaSによる行動変容による需要創出とデータ検証による深度化 ● 利用データの取得方法と利活用方法の検証 	

取組イメージ

MaaSを通じて提供するサービスのイメージ

九州における広域MaaS(同一PF/アプリ基盤の導入)

- 九州全域で地域が一体となったMaaSの社会実装を推進
- 地域住民・訪問者の利便性を向上
- 交通事業者が連携した持続可能な交通ネットワークの構築に活用
- “ウィズコロナ”の観光の利便性・競争力の向上

「地域の交通事業者・官民が一体となった運営組織」設置による下支え
 リソース・ノウハウを集約し水平展開 幅広いプレイヤーとの連携を推進
 社会実装の推進と持続可能なスキームを構築 関係者が一体となってデータを活用

評価指標

評価指標、目標、測定方法などを記載

- 九州7県におけるサービス展開の実現と九州広域での推進組織の設置
- 域内のデジタルチケットの販売枚数：30,000枚/月以上(アプリ管理画システムより確認)
- アプリサービスによる公共交通利便性向上：満足度70%以上(アンケート調査)
- 移動総量の増加：「サービスが外出のきっかけとなった人」の割合70%以上(アンケート調査) など

今後の方向性

- 交通事業者、官民の連携による利便性向上策の実施と持続可能な交通ネットワークづくりを推進
- 九州一体となった観光の利便性・競争力の向上策の実施
- 統一プラットフォームの利点を活かし、行政サービス、商業、観光、生活サービスなど幅広い連携を推進するなど、地域に必要なインフラとして社会実装を推進する
- 九州が一体となった運営スキームを構築し、データの活用を推進し、取り組みの持続可能性を高める